ジュゴン　Vol.59

ちゃんぷるニュース

SDCC Save the Dugong Campaign Center

2011. 11. 22

～パシフィック・ジュゴン年～

CONTENTS

●2　情勢―辺野古アセスの動き
●　高見沢防衛研究所長を証人へ
●3　フィリピン訪問記⑤
●4/5 活動報告
●6/7 会員さんからの報告
●　報告－満月まつり
●8　お知らせ

３月 11 日福島第一原発を大地震と大津波が襲った。ニュースは「全電源が喪失し、冷却が出来ない」「しかし炉心の水位は確保されているから大丈夫」と繰り返した。しかしこれは大ウソであった。現実にはメルトダウンは、もう始まっていた。そして水素爆発が起こり、広島型原爆 80 発分（注 1）ともいわれる放射性物質が、まき散らされた。

基地も原発もいらない

「原発安全神話」は崩れ去った。そして全国の市民が「脱原発」を訴え、行動を起してきた。９月 16 日には東京６万人をはじめ、全国各地でデモが行われた。避難者を各地で受け入れる取り組みも進んできた。11 月 11 日には「避難の権利の確立」「原発再稼働の中止」などを求め、経済産業省を包囲するキャンドル行動が取り組まれた。そして SDCC は「基地も原発もいらない」と、脱原発の各地の行動に積極的に参加してきた。

そもそも、原発は海の生態系を壊す。原発は７度温めた温排水を大量に海に放出する。全国 54 基の原発が放出する温排水は、なんと日本の河川から海にそそぐ総水量の 1/4 に上るという。（注２）　原発が温暖化防止に役立つとの宣伝は、まったくのウソだ。更に今回の事故によって、大量の放射能汚染水が海を汚し続けている。海の生態系を守るためにも、原発は廃止するしかない。

来年は IUCN 済州島会議である。世界中に放射能をまき散らした日本政府への各国環境保護団体の目は厳しいであろう。まして３度の IUCN 勧告・決議を無視し、日米合意にしがみついて、ジュゴンの海を埋め立てる基地建設など許されるはずがない。IUCN 済州島会議に向け、「基地も原発もいらない」「基地ではなくジュゴン保護区を」のキャンペーンを広げよう。　（関西　松島洋介）

出典　（注１）「原発のウソ」（小出裕章　著　扶桑社新書）　P.64
　　（注２）　同　上　P.120

[WEB] http://www.sdcc.jp/　[EMAIL] info@sdcc.jp

11 月 11 日、経産省を囲むキャンドル行動

移動中の電車の中で静かに存在を示すジュゴンちゃん（４面）

情勢　評価書提出の遅れが、辺野古移設の破たんにつながる

「評価書を沖縄県に年内提示」と普天間基地移設をめぐる日本政府の動向がマスコミを賑やかせています。10月25日、パネッタ米国防長官が「普天間代替施設建設の具体的進展」を求めて来日したからです。しかし、環境アセスメント評価書提出の目途はついていません。県内移設反対の世論だけでなく、在沖海兵隊のグアム移転（普天間基地の辺野古移設とセット）に反対する声が米議会で高まっているからです。米上院軍事委員会は2012年国防権限法案（①グアム移転費125億円凍結②海兵隊の配置構想やグアム移転マスタープランの提出③嘉手納統合案の検討など）を11月中に成立させる見込みです。財政危機の米国では、膨大になった軍事費削減が至上命題なのです。

一川防衛大臣は「はっきりしないまま（評価書を）提出しても（沖縄側に）信用されないので、しっかりチェックしたい」（10月27日参議院外交防衛委員会）と、米国のグアム移転マスタープランを待って評価書を沖縄県に提出するとしています。環境アセス評価書の年内提出を遅らせる闘いがいま重要です。パネッタ国防長官との約束が履行できなくなるからです。オスプレイ配備を隠していた高見沢・前防衛政策局長の那覇地裁での証人採用は、評価書の信用性を根本から問うことになります（記事別掲）。SDCCは防衛、外務、環境省との交渉（11/24、28）を準備しています。

防衛省は年内の評価書提出。沖縄県知事意見で３か月。評価書補正に１か月。評価書の公告縦覧に１か月。来年６月に公有水面埋め立て申請を予定しています。知事意見をまとめる県環境影響評価審査会の公開議論が重要です。ここでの議論が公有水面埋め立て反対の闘いにつながります。県外移設を求めている沖縄県が、公有水面埋め立てを了解できるはずもありません。だから、政府は知事権限を国に移す特別措置法案を検討しているのです。一日でも環境アセスを遅らせる闘いが、グアム・辺野古移設セットを破たんさせることになるのです。

辺野古の浜を分断するフェンス。そこに結びつけられたリボンやバナーは、たとえ何度持ち去られても、繰り返し貼り直され、「NO BASE」「ジュゴンの海を守ろう」のメッセージを発し続けます。

高見沢防衛研究所長を証人へ
～辺野古アセスやり直し裁判

１０月２１日、那覇地裁は公判と進行協議で、高見沢防衛研究所長（元防衛政策局長）を証人喚問することを示唆しました。環境アセス評価書の提出を急ぐ防衛省にとって、さらに厳しい状況になりました。高見沢氏は１９９６年のＳＡＣＯ（日米特別行動委員会）の交渉担当のとき、米国が垂直離着陸輸送機ＭＶ２２オスプレイの普天間基地配備を明言しないように要請していました。このことは、米国のジュゴン訴訟に提出された国防総省の資料で明らかになっています。事故を多発しているオスプレイの配備を、日本政府が故意に隠してきたことが明らかになれば、評価書の信用性が問われ、裁判には有利に働きます。

今後、１２月１４日第１４回公判で証人が決まり、来年１月１１日～１３日と２月１日～２日に集中審理が行われます。評価書提出をふまえて、沖縄県知事意見について県環境審査会が開催される時期と重なります。高見沢防衛研究所長の証人実現が期待されています。　（事務局　蜷川義章）

あみちゃんのフィリピン訪問記 ～その5～

あみこと SDCC のスタッフの正阿彌崇子は３月２日～８日と９月29日～10月16日にフィリピンを訪れ、地域主体のジュゴン保護区であるクリティカルハビタット予定地(ヒナトゥアン市)を視察してきました。

－フィリピンが教えてくれたこと－

フィリピン訪問は実際のジュゴン保護区を見て、SDCCの活動に活かしたいという思いからでした。今号では視察から私が考えたことをお伝えします。

今までのレポートで３つのことを挙げました。①フィリピンでは保護区設定の遅さ解消と地域主体の保護のため、クリティカルハビタットという制度が生まれたこと。②地域主体を目指すものの、住民意見の反映や住民が主役になった保護の仕組みを作るには今以上に時間や工夫が必要だということ。③市や NGO、国など異なる組織・団体が協定書を交わし、知恵を出し合う関係を築いていること。

SDCC は「基地ではなくジュゴン保護区を」をスローガンに掲げています。その保護区の提案にフィリピンの事例はヒントなると思います。日本では様々な法律により保護区が設定されます。しかし、それらはフィリピンと同じように「設定に時間を要する」「住民の意見が反映されない」という問題を抱えています。絶滅の危機が迫っているジュゴンを守るなら、時間の問題と持続的な保護として住民が主役になれる仕組みを主張していく必要があります。それには、SDCC がもっと住民の方と話し合い、保護区について具体的に考えなければなりません。海洋保護区について、政府による明確な定義がありません。ですから、SDCC は現行の保護区設定の弱点と私たちのいう「保護区」を明確に伝えることで、新しい保護の形として注目が集まる可能性が十分にあります。同時にこれらの取組みを SDCC だけでなく、行政や他の団体、住民と協定書を交わし、ジュゴンや海洋保護、住民主役の仕組みづくりに様々な知恵を出し合える関係の構築ができれば、保護区という形でなくてもジュゴンを守ることにつながると思います。

９月末からの視察で、私は更に「保護区を語ることは地域のこれからを語ることであり、地域の人の持っている力を引き出すことである」と考えるようになりました。次号で詳しく報告し、訪問記を締めくくりたいと思います。

（関西　正阿彌(しょうあみ)崇子）

漁師をあつめてのジュゴン講座
講座後、住民の方にいろいろなお話を聞かせていただきました

フィリピンで見てきたこと聞いたことをたくさんの方と共有し、活動に活かしたいと思っています。感想、意見、質問などをメールや手紙（関西事務所宛）で送ってください。皆さんの声をお待ちしております。

コラム　愛知ターゲットを軽視する日本政府

「リオ＋20」日本政府案に対するCOP１０参加市民団体からの緊急提言を、10月14日外務省と環境省に提出しました。

リオ＋20は2012年６月にリオデジャネイロ(ブラジル）で開催される「国連持続可能な開発会議」のことで、「持続可能な開発及び貧困緩和のグリーン・エコノミー」と「持続可能な開発の組織的フレームワーク」が議題になっています。20年前の1992年、先進国による環境破壊が激化する一方、途上国における開発と破壊が大きくなり、リオ会議で「持続可能な開発」が重要な概念になりました。また、生物多様性条約（CBD）が締結されました。

今回、国連に提出する日本政府案は、昨年10月に開催されたCBD第10回締約国会議(COP10名古屋 ）で決定された愛知ターゲット（生物多様性を守るための今後10年間の方向性）を軽視しています。SDCC など COP10 参加市民団体 33 団体などが「生物多様性を社会、経済、文化の基盤と位置付けること」「愛知ターゲットの実現の重要性を柱にすること」など緊急提言しました。

ワークショップ、ポスターセッションなどを申し込みました☆

来年９月６日から１５日まで、韓国済州島でＩＵＣＮ第５回世界自然保護会議が開かれます。７日から１１日まで、１万人の参加が見込まれる自然保護会議が、後半には人事や決議などが採択される大会が開かれます。ＳＤＣＣは自然保護会議に、沖縄ジュゴンの保護を求めるＩＵＣＮ決議の履行を求めるネットワークを広げるために、ワークショップやノレッジ・カフェ、ポスターセッションに参加を申し込みました。ワークショップでは、「生物多様性の保全で村おこし～地域・ＮＧＯ・自治体が連携して」を、フィリピン、タイのＮＧＯなどと議論を深めます。ノレッジ・カフェではフィリピンで取り組まれている自主的な保護区づくり、クリティカル・ハビタットの取り組みに学びます。ポスターセッションでは、ジュゴン保護のキャンペーンや自治体への働きかけなどＳＤＣＣ活動を展示します。ＩＵＣＮ本部は１１月末に参加団体を決定する予定です。

ジュゴンでトレイン

今年は１５日のジュゴンの日に合わせて１０月１５日に行いました。大阪駅を皮切りに京橋、天王寺で途中下車してまた大阪駅まで戻る環状線を１周するこのイベントは今年で３回目。「目立ってなんぼ」でにぎやかに開催できました。デモと違い一人一人に声をかけることができるこのイベントは斬新な企画といえます。

今回は始まりから雨模様の雰囲気がありありで、乗車中は大粒の雨が落ちてきましたが、電車から降りていざ署名集めという時になると、雨が上がりたくさんの署名を集めることができました。これもジュゴンパワーなのか、それともみんなの日頃の行いがよかったのかは定かではありませんが無事にイベントができたのは本当に良かったです。

このイベントは他の地域の方からは「やってみたい」とか、「関西は面白い企画を考えるね」とか言われるのですが、イマイチ参加者が増えないのが悩みの種です。今年は若い人の参加がありましたが、もっともっと多くの人が参加すればもっともっと目立つのに・・・。そして多くの人にジュゴンの現状を知ってもらえる機会になるのにな～と考えるとため息がでてきますが、来年からどうすれば参加者が増えるかというのは、私たちの大きな課題となりました。　（関西　上田千鶴）

ＪＲ天王寺駅で

初参加者もマイクアピール

ジュゴン♡フラッグ＊ギャラリー

みんなも送ってね☆

第8回チバリヨーなかの　秋祭り

沖縄県読谷村の基地返還闘争に学び、中野区でも平和への想いを膨らませようと平和・自治・環境・福祉をテーマに開催している「チバリヨーなかの」ですが、3.11 以降は震災、原発問題にどのような形で取り組んでいけるか悩みました。そんな中、中野区内に福島から避難して来られている方を支えている自治会の会長さん達にお会いし、被災者支援のイベントを一緒に運営する機会があり「自治会の取り組み報告」をプログラムに盛り込む事にしました。原発の近くに住んでいて家族で避難して来た小学生の作文も読んでいただくことができ「水素爆発後はもう帰れないと思った」「中野区内の小学校で友達もでき、何とかやっていけると思った」「でも、やはり故郷に帰りたい」と切実な想いが語られ多くの大人達の胸をえぐりました。沖縄の基地と福島の原発はまったく同じ構造であり、最も悲しい想いに晒されるのは何の罪もない一般市民だという現実を再認識したイベントでした。

（首都圏　村上祐子）

福島の避難者受け入れの活動を報告される会長さん。会の名前は「こらっせ白鷺」。こらっせとは「来て下さい」の意。

沖縄民謡とカチャーシャー　。みんなで楽しく踊りました

お神輿が登場すると、みんなが殺到します。
お神輿の曳き手さんたちも大変です。

たくさん集まったフラッグ♡
後ろのブースの方が、貼る場所を提供してくれました

本澄寺＆四天王寺の秋祭りに参加♪

日頃お世話になっている高槻・本澄寺さんから秋祭りへブース出店のお誘いがあり参加しました。水田が広がるのどかな場所に本澄寺はあります。近所の方々がお祭りのお世話をされていて、食事やぜんざいをふるまって下さいました。昔ながらの地域のつながりが残っているな～と懐かしさを感じました。日が暮れると提灯に灯がともり、お月様がきれいで郷愁を誘っていました。お祭りのメインイベントお神輿が登場すると、みんな最高に盛り上がります。数珠をもって神輿をたたくと 1 年間健康に暮らせるとのこと。また眠っていた神様を起こすという意味もあるそうです。私もしっかりお神輿をたたきました！神様をまつり、収穫を祝い、1 年の健康を願うお祭り、しみじみと謙虚な気持ちを思い出しました。

そして、四天王寺境内で催された“いのち紡ぐわたしたち”にもブース参加しました。署名やジュゴン♡フラッグを集め、ジュゴングッズを販売しました。子ども連れの参加者が多く、参拝者が立ち寄ってくれたり、とても賑やかでいいお祭りでした。子どもたちの笑顔がいっぱいの場っていいですね♪お祭りを通していろんな方にジュゴンのこと、沖縄の基地のことを伝えることができました。

（関西　池側恵美子）

会員さんからの報告

“愛すべきもの”――ジュゴンとともに！

私の勤めている社会福祉法人イエス団「ぶどうの木保育園」は「共に生き、共に育つ」を園テーマにして、“命・心・平和・人権”について、実体験を大切にしながら遊びこみ、取り組んでいます。

地上戦のあった沖縄の地を踏み、しっかりと心を揺さぶってほしい、そんな思いで取り組んでいる３泊４日の年長５歳児の沖縄平和キャンプは今年で７回目になり、絵本「つるちゃん」の主人公　金城つる子さんから沖縄戦のお話を聞いたり、佐喜真美術館では「沖縄戦の図」を目の当たりにし、伊江島へ渡り「ヌチドゥタカラの家」を訪れるとともに、辺野古座り込みテント村を訪問しています。

子どもたちの未来に美ら海を残したい！絶対に基地をつくらせない！という力強いおじい達のお話を聞いたり、大浦湾の浜辺でジュゴンの大好物のアマモを食べてみたり、持参していった手作りごみカバンにあふれんばかりに海から流れ着いたごみを拾いました。キャンプシュワブのフェンスの前では、“どうして向こう側はアメリカなの？”“どうして戦争をするの？”とたくさん心を使って考えました。

沖縄のシンガーソングライター「そら」さんの歌“愛すべきもの”をみんなで歌い、人間はどうして美しい自然を壊していくのか？ジュゴンが棲んでいるのに…“ジュゴンを守りたい！”“絶対に美ら海に基地はいらない！”と叫んできました。

運動会に着たＴシャツは、アダンの実で作った筆でそれぞれが“愛すべきもの”のジュゴンを表現しました。グランドを海に見立てて、元気に泳ぐジュゴンは子どもたちが「ここにオッパイあるんやで」「ジュゴンには手があって赤ちゃんを抱っこするねん」「ジュゴンてやさしいなぁ…」と言いながらハケやホウキでぬたくって遊びこんでつくりました。ジュゴンと一緒に大きくなりたい！と平和を創りだす心を育んでいる子どもたちです。

また、アクリル絵の具を使って、一人ひとりのジュゴンへのおもいを「ジュゴン・フラッグ」にして済州島に届けたいと計画しています。

（京都八幡ぶどうの木保育園　高垣縁）

それぞれのジュゴンＴシャツを着る子供たち

UNDB総会の報告

10 月 10 日、名古屋市内で「国連生物多様性の 10 年（UNDB）市民ネットワーク」会員総会が開かれました。UNDB 市民ネットは生物多様性条約（CBD）市民ネットの後継団体です。現在、団体正会員が 20、個人正会員が 14。

堂本暁子顧問（元千葉県知事）の開会のあいさつで総会が始まる。

つづいて、共同代表の高山進（伊勢・三河湾流域ネットワーク）から役員の提案、今後の事業計画案、予算案などが提案されました。幹事 15 人を選出した人事、事業計画、予算などいずれの提案も賛成多数で採択されました。

議論では、リオ＋２０政府案が愛知ターゲットの位置づけが極めて弱いとの報告があり、緊急アピールを出すことになりました。ＳＤＣＣからは「ボン条約やジュゴン保護署名国会議など日本政府が自らの都合で不参加していることについて批判すべき」「種の保存法や環境アセスの問題点を明確にして、法改正の取り組みをするべき」などを発言しました。ＵＮＤＢでは東京からの自然保護団体の参加や作業部会の充実が課題になっています。

会場で寄せられたジュゴン・フラッグ
右上は、高山進共同代表

最後に、出席者からジュゴン・フラッグ 12 枚の協力をもらいました。

（事務局　蜷川義章）

卑弥呼コード・竜宮神物語 ～こらむ・コラム～

日本史最大のミステリーと言えば、邪馬台国の女王・卑弥呼の存在だと思う。しかし卑弥呼が何処で生まれ、どのように成長して邪馬台国の女王にまでなったのか、未だに真実は闇に包まれたままである。それに邪馬台国が何処にあったのかということも、近畿説と北九州説に分かれていて、なかなか決着がつかないでいる。なかには邪馬台国は四国であったという人もおれば、「邪馬台国は沖縄だった」との本を出版した琉球大学の木村政昭教授のように、沖縄説を唱える人もいる。

もっとも邪馬台国は沖縄ではないのか？との疑問は以前からあって、「邪馬台国総合説・赤椀の世直し」の著者・名護博さんも、そのことにしっかり触れていた。それにこの邪馬台国沖縄説は、かなり以前から沖縄の新聞二紙の「声の欄」を賑わせてきたテーマでもあった。それは魏志倭人伝の記述を辿っていくと、南海の沖縄に着いてしまうという論拠があってのことであった。勿論私も沖縄説を考えてきたが、それは卑弥呼が沖縄にいたのではないのか？と思わせる祭祀や慣習や遺跡が、あまりにもヤマトと異なって存在して見えたからである。幼い頃から謎に思ってきた言葉の意味も、卑弥呼が沖縄にいたと考えることによって、すっきり理解できるようになった。そして何よりの収穫は、卑弥呼と龍宮神が結びついたことであった。それは私が平安座島の神人となって、勾玉に教えられたことだったのである。勿論勾玉は龍宮神ジュゴンを象った霊石であった。

私はみんなと一緒にSDCCの活動をしながら、出来るだけ早く「卑弥呼と龍宮神」の話をまとめて本にしたいと考えてきた。辺野古の新基地建設を阻止する為にも、八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）がジュゴンであることを国民的話題にする必要があると思うからである。12月23日には法政大学沖縄文化研究所主催の公開講座で、歌いながらジュゴン保護を訴えることにしている。「卑弥呼コード・龍宮神物語」がそれに間に合うかどうか分からないが、筆を進めるほど、とんでもないことになってしまった。それは卑弥呼が、古代ユダヤ教で待望されたキリストとして、倭人達に迎えられたということである。

海勢頭豊（うみせど　ゆたか：SDCC共同代表）

満月まつりは、「ジュゴンの海に基地はいらない！　まーるい地球、まーるい月、まーるい心！」を合言葉に1999年から大浦湾沿岸で続けられているライブイベント。
詳しくは　HP　http:// mangetsumatsuri.ti-da.net/

瀬嵩青年会のエイサー

去った１１月１２日と１３日、第１３回目の「満月まつり」が名護市大浦湾にある「わんさか大浦パーク」で開催されました。今回の満月まつりは、東日本大震災復興チャリティーとして位置づけられ、福島での原発事故を反映して「基地にも原発にも頼らない地域づくり」がテーマでした。

SDCC代表の海勢頭豊さんや、東村で暮らしているUAさんなど、総勢１４組のグループが、平和への想い、自然との共生の想いを歌や踊りで表現。会場に訪れた多くの人々も、やんばるの自然の中で「まつり」を満喫していました。

僕が印象に残ったグループの一つは、福島で被災して名護に移住しているMiwa&Muraの二人。特に、故郷福島の海のことを「汚染され、叫びながらも、海はいつまでも海でいようとし続けている」と語り、ブルース調のギターにのせて、ゆったりとした伸びのある声で、福島の海を想って歌うMiwaさんの歌は圧巻でした。大浦湾や辺野古の海にも、ジュゴンにも届いたと思います。

また地元三原区の子供エイサーや瀬嵩青年会のエイサーには、多くの人々が元気と勇気をもらったと思います。子供エイサーにはこの地域の未来が、また瀬嵩青年会のエイサーには地域を自分たちで作り上げていこうとする心意気が力強く感じられました。新しく２人のウミンチュの若者がメンバーに加わっていたことも嬉しいニュースでした。

SDCCも、豊な環境を守りながらこの地域がしっかり発展していけるように、これからもサポートを続けていきましょう。

（沖縄　吉川秀樹）

ＩＮＦＯＲＭＡＴＩＯＮ

ＷＷＦ花輪さんの自然保護人生を称える会に参加しました

ＳＤＣＣの活動に一緒に協力して頂いてきたWWFの花輪伸一さんが9月をもってWWFを退職され、「花輪伸一さんの自然保護人生の功績を称える会」が行われたので参加させて頂きました。会では「花輪さんクイズ」や、今まで取り組んでこられた保護活動についてのお話を聞くことが出来き、本当に自然を愛し多くの活動に取り組んでこられた偉大な方なのだと知ることができました。

会の後半ではＳＤＣＣから関西スタッフ手作りのお花を持ったジュゴンマスコットを贈り喜んで頂きました。花輪さんはこれからも湿地や沖縄の問題を中心に活動していかれるそうで、これからも一緒に沖縄のジュゴン保護のために活動して頂きたいと思います。

花輪さん、お疲れ様でした。　（首都圏　鈴木陽子）

新リーフレット登場♥

南アヤコさんのステキなイラストが表紙を飾る、新リーフレットが完成しました。このリーフレットで、ＳＤＣＣの活動、沖縄ジュゴンの状況がバッチリわかります。必要部数をお知らせいただければ、無料でお送りします（送料は有料です）。ぜひご活用ください☆

第３次署名提出＆政府交渉

11月末、署名の第3次集約分を提出し、環境省・防衛省・外務省と、ジュゴンの種の保存法指定、環境アセス評価書、オスプレイの配備等について、交渉をします。署名数は目標の1万筆を超えました！ご協力ありがとうございました。

第３次集約分１０５３６筆（累計　約５５７９５筆）

＜交渉日程＞

11 月 24 日（木）午前 11 時　防衛省
午後 4 時　外務省
11 月２８日（月）午前 10 時半～　環境省

＊海勢頭豊の歌と講演　「竜宮神が明かす古代史」
12月23日15時10分～16時40分
法政大学ホール　　沖縄文化研究所主催

＊「卑弥呼コード～竜宮神物語」海勢頭豊著
12月初旬　ゆい出版から発刊予定

Editor's Note

ジュゴン❤フラッグキャンペーン開始から約２カ月。すでに２１０数枚のフラッグが集まっています。みんなとても楽しそうに、かわいいフラッグを書いてくれます。書きあげた後、みんなとてもいい笑顔を見せてくれるのが、うれしいですし励みにもなります。

アフガニスタンで女性の自由と権利のために闘っている人権活動家で、元国会議員のマラライ・ジョヤさんにもメッセージを書いて、いただきました。

“世界中の基地よ、なくなれ！自由が続きますように”
厳しい活動をされているジョヤさん。笑顔がとてもやさしくステキでした。（Y）

ジュゴンちゃんぷるニュース　VOL.59 2011 年 11 月 22 日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター　Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
Tel/Fax 03-5228-1377　〒162-0815　東京都新宿区筑土八幡町２－２１
第１千代田ビル３０１　なかま共同事務所内
○ http://www.sdcc.jp/　○ info@sdcc.jp
（関西連絡先）　〒534-0025　大阪市都島区片町２丁目９番 21 号野口ビル 302
TEL/FAX　06-6353-0514

＊今号のちゃんぷるニュースはいかがでしたか？ご意見・ご感想をお寄せ下さい＊